

「選択肢が与えられた意味」

この夏、地元に戻省して母教会である同盟福音基督の笠松教会に行きました。教会に来ている小学生がこんなことを言いました。「イエス様ビームがあればいいのに」と言いました、「どんなビームなの」って聞いたらその子は「イエス様ビームをあてられた人はどんな人でもイエス様を信じるようになるビームだよ」って言いました。

僕の家はクリスチャンホームです。中学3年生のとき僕は腸閉塞になりました。始めは痛みもなにもなかったのですがだんだんと激痛になり、発生から6時間たって病院に行きました。病院に着くとすぐに手術するか、点滴で治すかと聞かれ「手術は痛いから嫌です」と答えたら、「小腸全体が炎症している、治るか分からないぞ」と医者は険しい顔をして言いました。医者は僕に何度も点滴を打ち続けました。しかし次の日には炎症がほとんど治り後遺症もなく元の生活に戻れました。このことをきっかけに神様という存在が僕を救ってくれた、僕を生かしてくれたと心から感じ、神様と向き合うようになりました。そして高校2年生のときに僕は信仰告白をしクリスチャンになり洗礼を受けました。心から神様を信じるようになりました。洗礼を受けてからは神様がなさることには必ず意味があると思えるようにもなりました。

そこで教会に来ている子が言っていた「イエス様ビーム」たしかにそのようなものがあってもいいと思いました。なぜならイエス様だって世界中の人に聖書のことを知ってもらい神様の存在を知り、1人でも多くの人が神様に対し信仰心をもち、1人でも多くの人が救われ、クリスチャンになってほしいと思われているはずです。神様は光、地球をつくれ、さまざまな動物・生物・そして僕たち人をつくられました。神様は人をつくられたとき、初めから人に信仰心をもたせてつくられることもできるはず、初めから完璧な存在として人をつくることもできたはずです。しかしそのようなことはされなかった。それはきっと神様が人に生きている意味・喜びや目には見えない存在などといったたくさんを経験し、さまざまなことを感じてほしいから人に選ぶ権利を与えてくださったと僕は思います。選択肢というのを与えられて生きているのだから、人の存在には必ず意義があると思います。そして人生の中で自分がしなければならないことを自覚し実行することが神様が僕たちに願っていることだと僕は思います。

このようなことを書きましたが正直僕はまだその答えがわかっていません。神様と共に歩み続け見つけていき実現していきたいです。